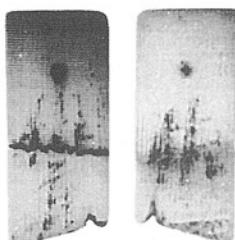


2001年出土の木簡

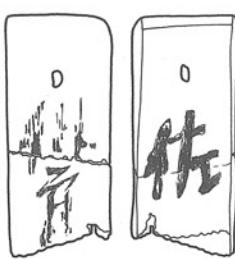


(青森西部)

が遺構外から出土している。
頭山—苦小牧火山灰の堆積
が認められ、陶磁器・砥石



(赤外線写真)



(木村淳一)

青森・高間（六）遺跡

木簡は六トレンチ内の現地表面から約10cm下の腐食土層から出土した。その約5cm下から前述の火山灰の自然堆積層が面的に確認され、平安時代以降と判断できる。

所在地 青森市大字石江字高間
調査期間 二〇〇一年（平13）一〇月～一月
発掘機関 青森市教育委員会
調査担当者 木村淳一

8 木簡の糸文・内容
(1) 「○佐」
(45)×19×4 019

5 遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 平安時代・近世・近代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は、青森市西部を東流する新城川の右岸標高五m前後の沖積地及び微高地上に立地する。本調査は、東北新幹線新青森駅（予定）周辺の土地区画整理事業に伴うもので、一六ヵ所のトレンチを設定し実施した。検出遺構は、土坑・溝・ピットで、土坑の埋土中に平安時代に降下した白

上端は方頭、中央に穿孔が見られる。下部は欠損する。また、表面の上端及び左上端部は面取りされている。
なお、糸文にあたっては弘前大学の鐘江宏之氏のご教示を得た。

9 関係文献
青森市教育委員会『市内遺跡発掘調査報告書』（二〇〇一年）